

# SWOT 分析レポート：警備業界（交通・雑踏）

---

## 【Strengths : 強み】

1. 地域密着型の信頼関係：長年の地域警備活動により、自治体・企業・住民との信頼関係が強固。
2. ノウハウ蓄積：雑踏・交通警備の配置ノウハウや対応事例の蓄積により柔軟な現場対応力。
3. 柔軟な人員対応：日雇い・契約形態の多様性により、短期的な需要増加への対応力が高い。
4. 法制度との親和性：法律に基づく業務であり、公的ニーズとマッチする業種特性。
5. 現場感のリアルな価値：AI や遠隔警備にはない「その場での人の判断・説得力」が依然として求められている。

## 【Weaknesses : 弱み】

1. 慢性的な人手不足：高齢者中心の労働力で若手人材の採用・定着が困難。
2. 高離職率：単調・立ち仕事・低賃金のイメージが強く、定着率が極端に低い。
3. 技術導入の遅れ：AI・IoT 導入が遅れ、デジタル化による効率化の波に乗り切れていない。
4. 収益性の低さ：価格競争が激しく、利益率が極めて低い業態。
5. 業界イメージの硬直：旧態依然とした組織文化や制服などが若者層に敬遠されがち。

## 【Opportunities : 機会】

1. スマートシティ・都市再開発：再開発地域での交通誘導やエリア警備需要の高まり。
2. イベント回復と観光再開：国際イベント・訪日外国人回復に伴い雑踏警備の案件増。
3. 防災強化政策：地方自治体の避難所整備・交通マネジメント強化政策が追い風に。
4. テクノロジー活用の本格化：ロボット導入・顔認証カメラなどによる差別化の余地。
5. 見守りサービスとの融合：高齢者見守りや地域防犯と連携する「生活安全インフラ」化。

## 【Threats : 脅威】

1. 人件費の高騰：最低賃金上昇によるコスト圧力が採算を直撃。
2. AI・ロボットによる代替：監視や巡回の一部はテクノロジーに置き換えられる可能性。
3. 労働環境への社会的批判：長時間立ち仕事・炎天下など劣悪な環境が問題視されやすい。
4. 災害・感染症による業務停止：パンデミック時に現場出動ができなくなるリスク。
5. 外国人観光客対応：多言語・多文化への対応力が不足している企業は競争力を失う。